

学校名	鹿島市立明倫小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学力向上に関して、タブレットを効果的に用いた授業実践や家庭学習の工夫が図れた。次年度はこの実践を生かし目に見える成果を出すために、全国学習状況調査や県調査で目標得点を設定し、職員の共通理解と共通実践を行う。 ・支援や特別な配慮を要する児童が増えてきているので、今年度以上に職員の特別支援教育についての専門性を高めるための研修会の場を増やしていきたい。また、特別支援教育についての情報発信を積極的に行い啓発していく。 ・職員の時間外勤務時間縮減のため、勤務時間を意識し、集中して業務に専念させる。そのために、定時退勤日の確実な実施と、その日以外も退勤時刻を設定する。そうして職員一人一人が業務に集中して取り組み、また見直しをもって取り組めるようにする。
------------------	--

2 学校教育目標	「いい顔 いい声 いい動き」の明倫っ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	【知】自ら考え学ぶ子どもの育成 【徳】思いやりのある子どもの育成 【体】たくましい子どもの育成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○主体的に学びに向かう児童の育成	○「見通しをもって自ら学習に取り組んだ」と肯定的な回答する児童80%以上 ○「めあてからふりかえりまでの学習過程に沿った授業を実施できた」と肯定的な回答をする教師90%以上 ○タブレットを効果的活用することができたと回答する教師80%以上	・児童が進んで課題解決に取り組むための見通しを具体化する。 ・児童の興味関心を高める課題設定の工夫を行う。 ・授業でのICTの利活用と共に、効果的に使用できるよう周知及び研修を行う。		・		・			・指導教諭 ・学力向上コーディネーター ・まなびチーム	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「生活の4つの約束を守ることのよさを感じる」と肯定的に回答する児童90%以上 ○「いい声(自他の心に優しい声)」ができたと回答する児童90%以上	・児童の状態に合わせて月ごとの生活のめあてを設定し、月末に振り返りを行う。 ・子どもたちの様子を放送や掲示板で中間報告し、自分自身の状況をメタ認知させることで、次の行動に生かす機会を設ける。		・		・			・生徒指導主任 ・生活安全チーム	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止対策をする職員100% ○いじめを覚知後の適切な対応ができる職員100%	・いじめに関する研修会を開き、全職員でいじめに対する意識と対応力を高める。 ・心のアンケートを定期的に実施する。 ・子ども教育相談の機会を設け、全児童の話を聞く時間をとる。 ・「はあとボックス」を設け、児童が自由に相談をできるようにする。		・		・			・管理職 ・教育相談担当 ・学年主任	
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答をした児童85%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ◎「鹿島の人・物・事のよさに気付いた」と回答する児童80%以上	・キャリアパスポート等を活用し、目標や見通しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して伸びた力について振り返らせたりする。 ・「ほめるからはじめる、はじまる」を合言葉にして児童のよさを認め、称賛する。 ・地域の人・物・事を活用した体験活動を充実させる。		・		・			・特活主任 ・学年主任 ・ときめきチーム	
	○児童が主体的に取り組む特別活動の充実	○「学校行事や学級活動、児童会活動に進んで取り組んでいる」と肯定的に回答する児童85%以上	・行事において実行委員を募り、児童が主体的に活躍できる場を設定する。 ・委員会活動では、児童自ら気付いて行動できるように、振り返りを生かした活動を支援する。		・		・			・特活主任 ・学年主任 ・ときめきチーム	
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化 ⑤望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ⑤「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・スポーツチャレンジやスポーツに関するイベントを委員会中心に企画し、楽しく運動する機会を確保し児童の体力の向上を図る。 ・食育指導や保健体育、学級活動等での学習を通して、生活習慣を整えることの大切さを理解させる。 ・生活習慣に関するアンケートを実施する。(2月に実施予定)		・		・			・体育主任 ・栄養教諭 ・養護教諭 ・体づくりチーム	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間上限の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外勤務及び定時退勤推進日における個人目標を設定し、月末に振り返りを行う。 ・管理職で確認し、声掛けを行う。 ・長期休業を中心に年次有給休暇を計画的に取得するよう働きかける。		・		・			・管理職	
●特別支援教育の充実	○合理的配慮や個に応じた支援と校内支援体制の充実	○配慮を要する児童について、教職員、保護者、関係機関と連携を図りながら、よりよい支援の在り方や具体的な支援方法を探ることができたと回答する職員85%以上	・定期的な児童理解研修や特別支援教育研修を行うことで、職員の共通理解を図るとともに、特別支援教育についての理解を深めていく。 ・個別の支援計画、指導計画の作成・評価・修正を行ったり、必要に応じて校内支援委員会を開催したりして、個に応じた指導や支援について検討する。		・		・			・特別支援教育コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	○地域人材及び関係機関との連携強化	○地域人材を活用した教育活動を各学年年間1回以上実施 ○学校運営協議会やSC、SSW、鹿島市の福祉課や民生児童との情報交換の場を必要に応じて複数回実施	・学年に応じた地域人材を活用した教育活動を年間計画に位置付ける。 ・学校内外からの学校への指導助言を生かして学校改善を行う。 ・学校便りの配布やマチコミメールを活用した月2回以上の情報発信に努める。		・		・			・CS担当者 ・管理職	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------